

第2回 北上川上流洪水減災対策協議会

減災対策に係る委員の主な発言（概要）

- ・ 相次ぐ台風で、洪水時の避難勧告への住民の関心が高まっている。関係機関との連携を深めながら、国、県、市がそれぞれの役割を果たすことで、被害の最小化を達成できるものと期待している。
- ・ 先日発表された浸水想定区域の見直しに関する住民向けの説明会を順次開催している。今後は、ハザードマップの見直しに向け取り組んでいく。
- ・ 減災対策協議会の取組を通して、ソフト対策の重要性を理解。
- ・ 減災対策として、共通の目標、取組ができた事は良いこと。各自治体の取組を可能な限り共有していきたい。
- ・ 住民に対する意識啓発として、水防訓練は住民参加で行っている。この様な取組が重要。
- ・ 水位に応じた、職員、水防団及び住民の行動を定めた監視計画を作成している。明確な基準であり、洪水時の行動判断の拠り所としている。
- ・ 避難勧告を発令しても、住民の避難がなかったことがある。普段からの住民へ説明が重要である。